

報道関係各位

2017年12月22日
国境なき医師団 (MSF)

シリア：南部の深刻な医療ニーズが明らかに——MSF 独自調査

国境なき医師団 (MSF) は、内戦続くシリアの南部、ダルアー県東部住民を対象に健康調査を実施し、その結果を 2 本の報告書で公表した。調査結果からは、同地域に暮らす人びとの深刻な医療ニーズ、人道援助の大幅な拡大の必要性が明らかになった。

報告書はダルアー県東部の町村、人口約 20 万人の地域で実施した 2 件の大規模地域健康調査（初回調査と第 1 次追跡調査）に基づいて作成した。調査は MSF によって 2016 年 7 月から 2017 年 5 月にかけて実施。それぞれの調査では、地域の保健担当者が無作為に選んだ 4000 人の個人を対象に、健康ニーズと生活の質について聞いた。

内戦の影響を示すデータ

これら独自調査によって得たデータからは、7 年近くに及ぶシリア内戦が住民を追い詰めている実態が見えてくる。繰り返される暴力によって地域住民の半数近くが避難を強いられ、家族の死因の半数は軍事行動に起因していることなどだ。また妊娠率は高く、家族計画策定率が低いことも明らかになった。地域の母子が直面する医療の欠如は危険レベルであり、母親は十分な産前ケアを受けられずに危険を伴う自宅での分娩を余儀なくされている。加えて、最大で 60% の 5 歳未満児が、必要な予防接種を受けていないこともわかった。

調査が示しているのは、シリアにおける人道援助が、その量や援助団体が現地入りできているかという点で不十分であり、援助の大幅な拡充によって、膨らみ続ける医療ニーズに応えなければならないということである。

調査結果の主なポイント

- 約半数の調査対象世帯（初回調査で 60.18%、追跡調査で 47%）が 2011 年の内戦開始以降居住地を少なくとも 1 回は変えており、90%以上は暴力を避けるための転居であった。
- 調査対象世帯の 7.88%（初回調査）から 7.6%（追跡調査）では、聞き取り調査前の 1 年以内に少なくとも 1 人の家族構成員を失い、その死因の半数近く（同 45.1%から同 43%に推移）が軍事行動によるものだった。
- 初回調査時には公的医療機関で毎月医療を受けていた人はわずか 21%にとどまった一方（医療機関を忌避している理由は、攻撃的にされることを避けるためである）、追跡調査では 47%となった。

- 初回調査では対象世帯の 27%が一部欠落、または壊れた家屋に住み、雨風からは守られていなかった。追跡調査ではこの指標はわずかに下落したものの、18.7%と高い水準にとどまった。
- 5 歳未満児の予防接種率はわずか 40%にとどまっている。これは生後 18 ヶ月から 5 歳未満の子どもの間で、ワクチンで予防できる病気について必要な接種回数を受けた子どもの比率である。
- 女性の健康についても大変憂慮すべき数字が出ており、高い妊娠率、低い家族計画策定率、不十分な産前ケア、高い危険を伴う自宅での分娩率などが象徴的である。

国境や前線をまたぐ援助提供が不可欠

MSF の人道医療推進センター（ヨルダン・アンマン）で健康動向調査オペレーション・マネージャーを務めるガッサン・アジズ医師は、調査結果によって懸念すべき分野が複数存在していることが明らかになった一方で、MSF が同様の調査を実施できていないシリアの他地域の医療ニーズはさらに心配な状況にあると指摘する。

調査地域でみられた医療ニーズの高さを考えると、MSF は国連安保理決議 2165 号（現在では 2393 号）によって人道援助団体は紛争前線と国境通過地点をまたぐルートを使い続けてもよいという認識を持っている。

だが、国境をまたぐ枠組みが導入されているにもかかわらず、人道援助団体は援助を必要としている 1310 万人のシリア人に援助を届けるにも苦労している。また、このうち 610 万人は国内避難民で、そのさらに 300 万人は包囲地域に住んでいる。

シリア政府に対する再三の要請にもかかわらず、MSF は現在シリア国内の政府支配地域で活動できていない。MSF は次の 3 点について懸念している。1. 国境をまたいでの援助以外に選択肢がないこと。2. シリアの首都から前線をまたぐ形の人道援助提供はその内容も対象地域も限られたままであること。3. その一方で、ニーズは高いまま推移していること。

「国境をまたぐ援助提供は数百万人のシリア人にとって命綱であり、シリア南部のニーズに応えるための MSF の活動に必須となっています」と、人道医療推進センターで MSF の中東ユニット長を務めるアイトル・サバワゴグズィコフは話す。

「紛争被害を最も受けている人びとの元へ、独立した人道援助を制約なく届けることが引き続き求められています」

調査報告書（英文）

初回調査

<http://www.msf.org/sites/msf.org/files/east-daraa-baseline-syria.pdf>

第1次追跡調査

<http://www.msf.org/sites/msf.org/files/east-daraa-follow-up-17-may.pdf>


2016年中、MSFはシリア国内各地の直営病院と移動診療で合計37万2000件の外来診療、5300件の医療救援キット配布、2000件の分娩介助を行った。その他MSFが遠隔支援している医療施設では、合計220万人の外来診療、77万件の救急診療、22万5000件の外科手術を実施した。2016年のMSFのシリアでの活動予算は4000万ユーロ（約48億800万円）であった。

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平

TEL：03-5286-6141 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press